

大正9年8月の水害

(略) 大正8年は年間を通じて8回の大洪水に見舞われて農作物は収穫皆無のうえ、常呂原野の居住が困難となった。

このために、耕地を売り渡して離農、転出する部落民は日ごとに増加し、開拓以来、今日まで天塩にかけて作り上げてきた農地も葦原が密生する湿原地帯と化し、将来の農業経営に暗い影をさらけ出してきたのである。

1俵価格 大豆・9円 小豆・11円 エンドウ豆・1円40銭 でん粉・14円
豆の大暴落と大水害の被害により大打撃を受けた。

大正9年

荒廃した農地はどこもかしこも葦の伸びほうだいとなり、鴨が飛び交い、せり積み場となった。しかし、排水工事は遅々として進まず、道庁直接工事としての働きかけを強めた。

8月10日から18日にかけて洪水が起り、昨年の追い打ちの被害となり、この年は春から合計9回の水害に襲われた。

『豊川区開基百年記念誌』掲載・抜粋

「83年の思い出」(抜粋) 城石およき

(略) 大正9年9回、大正11年は大洪水で、たび重なる洪水で生活に困り、父は治水工事の出面に出て働いていました。(略)

『豊川区開基百年記念誌』掲載

「思い出」(抜粋) 江田由蔵

(略) 私が北見に来たのは大正8年8月3月2日です。それは現在の共立川東、得川様のおられる土地です。そして耕作面積は5町歩です。(略)

1年暮らして大正9年は、春から秋まで1年に9回も水が付き、春蒔き小麦、エン麦、亜麻、エンドウ、豆類、そばなどを蒔き付けしておりましたが、従って生活に困り、冬になって能取の山に働きに行きました。(略) 大正9年は春から雨降りが多くて、1年で9回の水害に遭いまして、実に生活に困りました。(略)

『豊川区開基百年記念誌』座談会に掲載

『常呂町百年史』掲載「第3節 常呂川の氾濫と治水」から抜粋

(略) 大正9年8月10日から18日まで、まるで追い打ちをかけるように洪水が起り、農作物被害175町5反、28万5千730円、浸水家屋184戸、所有物被害2千680円、堤防決壊30ヶ所延長220間、被害6千円、道路破損4ヶ所延長20間、被害300円、橋梁流失4ヶ所延長14間、被害総額計30万8千630円を生じたのであった。(略)